

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人至泉会あけぼの園		
○保護者評価実施期間	令和6年 11月 18日		～ 令和6年 11月 29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31名	(回答者数) 23名
○従業者評価実施期間	令和6年 11月 7日		～ 令和6年 11月 22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数) 20名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 1月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○支援の質の向上に対する取り組み	<p>○権利擁護に関する取り組み 毎月、チェックリストで自分自身の支援を振り返る機会があります。チェックリストは委員会が集計し、他の職員の気付きを共有するために全体周知をしています。意見交換が必要な事項は、クラス会議等の場で話し合いをしています。</p> <p>○事故のリスクに関する周知 怪我には至らなかったものの「ヒヤリ」とした件を職員全体で共有し、事故の未然防止に努めています。</p> <p>○園内研修の充実 勤務形態に関わらず、直接支援職員全員が支援技術の研鑽や虐待防止、感染症対策、災害対策、事故防止、防犯などの研修を受けられるように、計画的に園内研修を実施しています。</p> <p>○多様な意見の収集 職種や立場に関わらず多様な意見を吸い上げ、施設運営や支援の改善に繋がれるよう、会議やアンケートにて意見交換や意見表出の場を設けています。</p>	<p>・職員の希望に応じた外部研修へ参加できる機会を確保できると、更に研鑽に繋がると考えます。</p>
2	○風通しの良い園	<p>○保護者との情報共有 保護者が園の日課を体験できる保護者支援行事を設けたり、保護者見学の随時受付をしています。お子さんの体調や怪我については、小さな事であっても保護者に状況報告をしています。</p> <p>○家族の参加 運動会とクリスマス会は広い会場で開催し、きょうだい児や祖父母もできるだけ参加できるように企画しています。また、保護者がボランティアとして園内行事の運営に携わる機会を設けています。</p> <p>○外部からの来訪者受け入れ 他の事業所や教育機関などの外部機関からの見学や、学生の実習、個人ボランティアを受け入れています。</p>	<p>・今後もボランティアの受け入れや関係機関の見学などを充実させていけるように努めます。</p> <p>・ボランティアや実習生などから、園についての意見や感想を頂く機会を設けられると良いと思います。</p>
3	○個々に応じた支援	<p>○日々の支援の振り返り お子さん一人ひとりの様子について、送迎時や連絡帳で保護者と情報交換をしたり職員間で情報共有し、日々の支援の実践と振り返りを丁寧に積み重ねています。</p> <p>○個々に合った支援の提供 集団の中で個別的な関わりを必要とするお子さんに対し、職員が付き添って一对一の支援をしています。また、それぞれのお子さんにとって分かりやすい環境設定(関わり方、道具、活動空間など)を考えています。</p> <p>○個別支援計画 お子さん自身の希望や保護者の意向を汲み取りつつ、児童発達支援ガイドラインに沿って、最善の支援目標および支援方法を作成しています。</p>	

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○支援ニーズに対する職員数の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・職員配置は国の基準よりもかなり手厚いのですが、個別対応の必要性と比較すると不十分と感じることがあります。 ・職員配置に余剰がなく、職員の欠勤時にフォローできる体制が十分ではないため、当園が基本としている職員配置（1クラス5名以上）が厳しい場合があります。 ・新型コロナウイルス感染症の流行以降、職員が食事を別室にて交代でとるようになってから、必ず教室内の職員が一人減る時間帯があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・配置される職員数に応じて、以下のように臨機応変な対応ができることが望ましいと考えます。 ①配置人数によって、より安全性の高い活動内容に変更する。 ②活動によってグループ分けをする。 ③他クラスと合同で活動する。 <p>そのために、まずは柔軟に運営方法を考えていくという共通認識が必要と考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症のまん延や災害発生時など、職員配置の不足が予測される際の運営について、業務継続計画の周知等によって保護者にも認識を深めてもらうための働きかけが必要と考えます。
2	○活動空間や設備の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さんによっては安全に戸外活動ができる場所が限られています。また、園内の戸外空間（屋上園庭、ミニ園庭等）において、お子さんの行動に応じた安全性がとりにくい場所があります（敷地外に出て行けそうな柵の場所がある、頭をぶつけそうになる突起物がある等）。 ・個別的に利用したり、クールダウンが必要なお子さんが一人で落ち着けるような部屋が少ないです。 ・活動物品を一時的に保管する場所が少なく、お子さんが移動等で立ち入る場所に置いておかなければならないことがあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園舎の増改築は難しいため、現在は以下のような工夫をしています。 ①クラス間で部屋の使用時間を調整する。 ②定期的に園舎内の見回りをし、危険箇所がないか確認する。また、気になる点は随時補強や片付けなどの対応をする。 ③パーティションやテーブルを利用して同じ部屋で空間を仕切る。
3	○幅広い家族支援	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が見学や体験をしている際、職員が常時保護者に付き添って説明できる体制をとることが難しいです。 ・運動会とクリスマス会はきょうだい児も参加できる行事ですが、きょうだい児の参加が原則不可の行事等が多くあります。 ・園主催の懇談会や保護者の自主的な集まりをサポートする体制はありますが、園としての保護者会はありません。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者にその場で説明できないことが想定される場面については、事前に趣旨を伝えたり、振り返り時に分かりやすく説明をすることが必要と考えます。 ・園として、きょうだい児に関われる機会を増やしていけると良いと考えます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		社会福祉法人至泉会あけぼの園				公表日	令和7年 1月 15日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	18	2			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	12	<ul style="list-style-type: none"> ・国の配置基準よりもかなり手厚い配置をとり、お子さんに合わせた支援ができるよう努めています。 ・安全面を考慮し、必要に応じてクラス内でグループ分けをしたり、他のクラスと合同でおこなうなど工夫をしています。 ・クラス固定の職員だけでは職員の配置人数が偏る場合があるため、フリー職員や管理職がサポートして臨機応変に配置人数の調整をしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別的な関わりが大切なお子さんや一人での対応が重要な場面において、そのニーズに対する職員の人数が不足していると感じることが多くあります。 	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	19		<ul style="list-style-type: none"> ・パーティションで区切るなど、各クラスでお子さん達の状況に応じて工夫した空間づくりをしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放送設備がないなどの情報伝達については課題があります。 ・各教室に保管棚はあるものの、大きめのおもちゃや運動器具、必要ないテーブルや椅子など、廊下に置いておかなければならない物が多くあり、事故に繋がらないように整理が必要です。 	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	18	1	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除の分担表があり、意識的に実施しています。また、教室や備品の清掃、消毒を職員が毎日実施しています。 		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	18	2	<ul style="list-style-type: none"> ・必要なお子さんや場面において個別的な部屋が利用できるように、クラス間で時間調整をするなどの工夫をして対応しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋数が限られているので、事前に調整していないと希望通りに利用することが難しい状況があります。 	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	17	1	<ul style="list-style-type: none"> ・園内運営会議、各委員会会議、療育支援会議、クラス会議などの会議を定期的実施しており、全職員がいずれかの会議に参加できるようにしています。また、参加していない会議も記録の回覧にて情報共有をしています。 		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	18		<ul style="list-style-type: none"> ・全て対応できるわけではありませんが、衛生面や安全面の環境面等に関するご意見について、速やかに検討し改善に努めています。 		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	20		<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、虐待防止セルフチェックリストと同時に、運営についての意見を収集できる体制をとっています。また、毎月のクラス会議も意見のくみ取りに繋がっています。 ・各会議の内容について、非常勤職員にも速やかに報告や記録の回覧をしています。 		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	14	3	<ul style="list-style-type: none"> ・囁託医や産業医からアドバイスを頂いています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者評価は実施していません。 	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	20		<ul style="list-style-type: none"> ・常勤職員だけでなく、非常勤職員も研修に参加できるように時間や研修の方法(動画、数回に分ける等)を工夫しています。 ・法人内では、階層別研修および権利擁護研修を開催されます。 ・義務化されている研修以外にも、支援の質を向上させるための園内研修を実施しています。 		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	19		<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援ガイドラインに沿って支援プログラムを作成し、ホームページにて公表しています。 ・個々の活動のねらいについて、保護者がいつでも確認できるよう、連絡帳にも説明書きを綴っています。 		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	19				

適切な支援の提供	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	18			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	19			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	15	2	・標準化されたツールでのアセスメントについては、保護者からの外部の発達検査報告などを参考にさせてもらっています。 ・遠城寺発達検査を活用しています。	・園内では標準化されたツールでのフォーマルなアセスメントはできていないので、園内で発達検査を実施できる体制を整えることは課題です。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	17			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	15			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	16			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	17			・必要に応じた個別対応ができている場合もありますが、全園児対象に十分な対応ができるかという点では課題があります。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	18			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	20			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	18	1		・記録の徹底はされていますが、定期的に見直す機会が充実すると良いと思います。
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	17				
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	12			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	16			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	16			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	18			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	9	2	・地域の子ども部門の会合を通じて、地域の諸課題の共有と検討をしています。	・地域の中核を担う立場としての他事業所との連携については今後の課題です。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	13	1	・定期的に児童精神科医、理学療法士、作業療法士の助言を受ける体制を整えています。 ・権利擁護研修や保護者講演会の講師には、外部の専門家を招いています。 ・感染症に関する研修では保健所の医師や保健師を講師として招いています。	・支援時間に実施される外部研修への派遣ができていない状況です。
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	13			
	(31は、事業所のみ回答)					

携	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。					
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	19		<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の公立幼稚園での交流活動を実施しています。その際、保護者の見学希望にも応じています。 ・希望に応じて園児の居住地にある幼稚園との個別交流を実施しています（条件あり）。 ・クラス単位で、幼稚園児と近隣の広場にて一緒に遊ぶ機会があります。 		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	18				
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	18		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭ごとの親子登園日、児童精神科医の助言日、講演会や勉強会などの実施により、保護者が支援についての知識を得る機会や実際に体験する機会を設けています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアレントトレーニングのプログラムは実施していません。 ・保護者が支援の現場に入って体験する機会はありませんが、お子さんの支援方法についての共有や意図の説明だけでなく、保護者が一緒に実践できる機会が増えると良いと考えます。 	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	16		<ul style="list-style-type: none"> ・当園の支援内容や大切にしている事などについては、当園の入園を検討している段階の見学会から説明をしています。 		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	17				
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	18				
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	17				
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	16		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者主導の集まりのサポートや園主催の座談会を開催しています。 ・保護者に園行事の運営ボランティアをお願いしており、交流の一環となっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・きょうだい児の交流機会は運動会やクリスマス会などの大きな行事に限られています。 	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	18				
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	17				
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	20		<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報書類のある棚や部屋の施錠、職員の事務室常駐などで気をつけています。 ・広報等におけるお子さんの写真掲載については、年度ごとに可否の意向を確認するとともに、使用前にも実際の写真と用途を説明して再度承諾を頂いています。 		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	18				
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	7	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の催しでは、園児の作品を展示することで参加しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で民生児童委員の定期来園が難しくなると以降、行事の招待を含め、地域住民との交流機会があまりない状態です。 	
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	19		<ul style="list-style-type: none"> ・各種指針、計画、マニュアルなどは園内に自由に閲覧できるようにしてあり、その所在は通園のしおりにて周知しています。 		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	18		<ul style="list-style-type: none"> ・業務継続計画を策定し、職員の研修や訓練を実施しています。また、地震・火災・水害想定での避難訓練を実施したり、保護者への引き渡し訓練を実施しています。 		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	20				

非常時等の対応	48	食物アレルギーのあることについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	19		・医師の指示書を基にアレルギー食材が除去された状態で食事をするよう対応しています。また、事前に保護者へ献立表（食材も明記されている）を確認してもらっています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	17		・安全計画を策定し、それに基づいて毎月の安全点検をしています。また、防犯や事故防止（救急、バス事故防止、環境整備等）に関わる職員研修や訓練を実施しています。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	14			・保護者への周知や連携した取り組みは今後充実させていけると良いと考えています。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	20		・速やかに職員間で全体周知し、再発防止のためのカンファレンスを実施しています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	20		・権利擁護委員会を中心に、毎月虐待防止セルフチェックを実施したり、『より良い支援を目指して』というメインテーマで児発管や児童精神科医が定期的に支援研修を実施しています。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	13		・現在は対象児がいません。	